

問1

仕事では一流を目指すべきで、そのためには何度も全身でぶつかっていくように「一流」へ触れることが大切である。また、環境に不満を述べ「頑張らなくていい理由」を探すのではなく、よい結果を出すための知恵をめぐらし工夫を凝らすことで成長につながる。そして、仕事に対するプライドは、仕事を受け取った相手の笑顔に支えられたものと捉え、必要なアドバイスは誰のものでも耳を傾け、結果(ゴール)に専心することが大切だ。

(199字)

★以下に相当する趣旨の記述があるかチェック

- ①仕事では一流を目指すべき
- ②何度も全身でぶつかっていくように「一流」へ触れることが大切
- ③よい結果を出すための知恵をめぐらし工夫を凝らすことで成長へつなげる
- ④仕事に対するプライドは、仕事を受け取った相手の笑顔に支えられたものと捉える
- ⑤結果(ゴール)がどこにあるか考え、そのために必要なアドバイスは誰のものでも受け入れる

問2

本文では筆者の考える「一流」の在り方について言及されているが、私たちの目指す医師、とりわけ臨床医における「一流」とはどういったものであろうか。

医療の目的は患者の救命および健康の回復・維持であり、そのためには患者の抱える身体的・精神的・社会的な苦痛を取り除く必要がある。しかし、これらの苦痛は目に見えるものではなく、患者本人から痛み方や部位といった情報を引き出さなければならない。このとき、第三者である医師が信頼できる人でなければ、自身の身体的苦痛について話すのはためられるし、それが精神的・社会的な苦痛であればなおさらである。

以上より、臨床医における「一流」とは、臨床コミュニケーションを駆使し、患者との信頼関係を構築できる状態を指すと考える。具体的には、日ごろから患者の所作等を観察し、話すことに対し真摯に耳を傾け、強い興味と関心をもって共感することが大切だ。

(400字)

